

2015年10月19日

日本臨床心理士養成大学院協議会会員校
研究科長・専攻主任 様

日本臨床心理士養成大学院協議会代議員
浅田剛正

日本臨床心理士養成大学院協議会の次期会長選任に関する意見書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度、日本臨床心理士養成大学院協議会（以下、臨大協）の第5期理事体制におきまして、会長選任の投票を行う旨、2015年10月15日付の通達が各代議員宛に郵送されてまいりました。本件につきまして、以下の通りの危惧がございましたので、情報提供させていただきます。

ご存知の通り、臨大協は臨床心理士養成大学院167校によって構成され、各会員校がより良い教育体制を持つために連携を図る組織です。本会の運営に関わる重要事項については本来、会員校内で審議し、その総意を一票として決議がなされます。しかし、本年6月に実施されました理事校選挙、その再開（やり直し）およびこの度の会長推挙に関する情報が会員校全体で周知、検討されないまま、代議員個人の意向で投票が進められているという経緯を複数の会員校関係者より側聞いたしました。

そのため、今一度、本状に添付いたしました「第5期理事選出のための選挙の停止及び再開に関する選挙管理委員会報告」をご確認いただきたく、また併せて下記の2点につきまして、改めてご確認いただきたく本状を送付させていただきました。

なお、本意見書につきましては、全臨大協会員校宛てに送付しております。すでに周知確認されている会員校の皆様におかれましては、大変失礼なことを申し上げますご無礼をお赦しください。

敬具

記

1. 臨大協は臨床心理士養成大学院がそれぞれの大学院の固有の特色を活かし、より良い発展を目指してゆくための協議会である。現在、臨床心理士養成に関わる政情や大学事情が様々に変化しており、会員校である各大学院はこれまでの独自の実績を活かした生き残りを賭けて、一層の連携を深めてゆく必要があると思われる。この局面にあって、日本心理臨床学会の理事長および日本心理学諸学会連合の副理事長の任にある野島一彦氏を、さらに本会の会長として兼務させることは、大学院の発展を目指す当会の独立性と健全性を著しく損なう危惧があると考えられる。
2. 会長として推挙されている野島一彦代議員は、本年6月に実施された理事校選挙の折、個人的な思惑から少なくとも2名の申し立て人に日本心理臨床学会理事長等の立場を利用してパワーハラスメントを行ったことが、弁護士介入の下で明らかとなっている。そのことにより臨大協による選挙のやり直し等の措置がとられ、野島氏本人もその事実を認めているにも関わらず、そのような経緯のあった野島氏を現段階で会長としてふさわしいと認めるわけにはいかない。（添付の「第5期理事選出のための選挙の停止及び再開に関する選挙管理委員会報告」を参照）

各会員校の研究科長様におかれましては、上記の事情と意見を代議員任命権者および当該大学院の教員に十分周知された上で、この度の会長選任について慎重なご議論をいただき、今後の臨床心理士養成大学院のさらなる発展に資するご判断をいただきたいと思います。

以上

